

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

## 1 階

事業者名	グループホーム武佐の杜	評価実施年月日	平成21年11月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	家庭的な環境と地域住民との交流の下で、共同生活を安心して暮していただける思いで事業主と話し合っている。	お互いに歩み寄る事で地域の皆さんに顔を覚えて頂き今後尚一層深く関わって行く
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々変っていく利用者に対して今のその人らしさを大切に理念と照らし合わせ変化ごとにどのように支援するかを相談し合い、職員一丸となり取り組んでいる	一人一人の生活リズム・性格を見極めた介護を心がける
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族・町内会の方々へグループホーム便りを配布している。地域の行事に参加している。 家族には、契約時に説明している。	地域の方々に理解して頂き積極的に関わりを持ちたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の美容室・理容室に行ったり、来てもらっている。散歩途中で近隣の方に庭を見てもらったり、庭の木の実と一緒に摘んでいる。	利用者さんと一緒に町内会長宅へホームの月間便りを届けに行き顔馴染みになっている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会のお祭りや作品展の見学・大掃除に参加したりと交流を深めている	ホームでの行事にも町内会長さんをはじめ地域の方々にも参加して頂き今後も交流を深めていきたい
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会会長、女性部の協力の下、利用者と共に手打ちうどん、お好み焼き等を作ったり、踊りを教えてもらい楽しんだ。	地域高齢者と共に介護予防教室等をホームで開催したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価する事で自分の介護を振り返る事ができ、また外部評価にて閉鎖的になるグループホームを見直すことができる。</p>	<p>自己評価・外部評価を機会にして、職員間でも日々の介護について話し合い取り組んでいる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議で前回の報告を行い家族会や町内会長・包括センターの方々からの意見をもらいサービス行事等に活かしている</p>	<p>毎回テーマを決めて実施している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括センターに毎月発行している(かわら版)を届ける際相談助言を頂きサービスの向上に努めている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所は、研修を受けて理解に努めている。将来必要になる方については、市役所に相談するなど活用出来るように準備している。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修参加等で学びフロア会議で情報共有・統一したケアをしている。</p>	<p>虐待防止マニュアルを活用している。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者・家族等にしっかり説明し納得の上で契約を結んでいる</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの不満・苦情等については、訴え時しっかり傾聴し会議でも話し合い解決に努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	写真入月例便りを家族へ郵送し、利用者の暮らしぶり等が分かる様に担当者からの状況報告もしている。又、家族の方が訪問時にも近況報告をし行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に不満・苦情を話して頂けるような雰囲気作りを職員全員で心がけている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一度のフロアー会議で職員の意見や提案を聞くようにしている。年1回の個人面談を行い一人一人の意見を聞いている		話し合う機会を設けストレスの軽減を図りたい
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の協力があり突発的な勤務調整や、必要な時間帯のスタッフ確保は出来ている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職職員がいた為やむを得ず行ったが、必要最小限に抑えるよう努めている		離職者が出ないよう常日頃より職員の思いを聞くなど早めの対処を考えたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は研修を受ける機会を確保してくれており、管理者はその為に勤務調整を行ってくれている。</p>	<p>研修後は報告書を提出し会議などで報告を行っている</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交換研修や勉強会等の機会を設けている。又、そのときの報告を会議にて行いサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>研修後は報告書を提出し会議などで報告を行っている</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>声を掛け合いながら休憩時間を利用し話し合っている。リフレッシュ休暇(有給)も交代で取れる様にしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個人の性格を理解した上で勤務状況を把握し向上心を引き出せるように努めている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族や本人に関わった事業者や病院などから情報収集をし本人の意見や思いを傾聴し安心出来るように努める</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前の相談や意向を充分傾聴し不安要因の軽減に努める</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態や家族との話し合いの中、何が 필요한のか職員間でも協議しながら初期支援計画を作成している。		入所時にセンター方式に記入してもらっている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に本人・家族が見学を行いホームでの生活と雰囲気を感じて頂いている。疑問に思うことは、その都度家族に連絡をし解決に向けている		入所時に、希望に応じお試し入居期間を設けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来る事をなるべく着目し(洗濯・掃除・調理・縫い物等・畑仕事)職員と一緒にいきいきと生活出来る関係を築いている。		利用者は、人生の先輩であるという意識を持てるように心掛けて行きたい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来説時には、日々の様子を伝えており本人の意向や訴えに対しても電話連絡をし催し物などの案内を行い時間を共有出来るように働き掛けている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の生活に対する意向を明確にし情報交換を行い良い関係を築いて頂けるように支援している。(家族との食事会・買い物)		通院などを機会に家族とのより良い関係を維持してもらっている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が来設の際居室にてくつろいで頂ける様な対応また来訪していただける様な雰囲気作りに努めている		昔行っていた美容室にそのまま続けて行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	介護員が間に入り関係作りを支援している。本人に合った役割を持ち時には、助け合い、支えあいながら生活を送っている。		利用者同士が家事などの共同作業を行うことによって、より良い関係が保てるよう努めている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後は、家族からの連絡はないが家族であった時は挨拶を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から自分の思いを伝えられるように信頼関係作りを努めている。希望が叶うようにスタッフで話し合う機会を作っている。		ドライブは行っているが遠方はあまり実施していないので、行事に組み込み実施したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用しサービス内容については、家族からの情報をもっと提供して頂きその人らしさを引き出せるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中で体調の変化、表情、言動に注意しながらスタッフ間で情報交換をしている個人日誌の活用。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月ごとに会議等でカンファレンスを行い、担当者が中心となり計画書を作成する。介護計画表は家族に説明し捺印を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直し時期とは別に家族からの意見や変化が生じた時はケア内容の変更を行う。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常、記録にプランの結果を記号にて記入し、情報を共有している。プランの他で、入居者の状態がわかるように文字の色を変えて次のプランに活用できるように行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族が宿泊されることもあり、クリスマス会・餅つき、秋祭りなどで食事と一緒に参加して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアの方々が自主的に訪問している。(日本舞踊・将棋・落語・演劇サークルの合唱)		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のサービス事業者と連絡を取りながら車椅子・ベットを購入している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	二ヶ月に一回の運営推進委員会にて情報交換・相談・協力が得られている。家族会にも出席して頂いている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	希望に沿って適切な医療を受けられる支援を行っている		往診医とのコミュニケーションは大切にしている(2週間に一度往診)。今後も本人・家族の希望を伝えられるよう事業所とかかりつけ医との関係を密に行う。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	利用者の状態によって認知症専門医への受診を家族にすすめ診断・治療が受けられる様支援する。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	看護師が勤務しており日常の健康管理を行っている。かかり付けの医師や看護師と連携をとり相談しながら支援している		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	面会時には、状態の確認などを行い病院と話し合い退院後も安心して過ごせるよう支援している。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	かかり付け医師とターミナルケアについて話し合いをしている。		かかりつけ医主催のターミナルケアの講演会に参加した。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	重度化・終末期を迎えた利用者がより良い状態で残りの人生を過ごせる様、かかり付け医師と相談しながらチームケアを行なうことを検討する。		チームとしてし職員全体に利用者の重度化・終末期の支援の統一を話し合う機会を設け、既にターミナルケアを行っている他グループホームの方々に意見を伺っている。また、そのホームへの職員研修も予定している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替え時フェイスシートにて関係者と事前に情報交換し利用者がダメージを受ける事がないように努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレ誘導時、他者に聞こえない様声かけをする等の配慮をしている。また、記録物については都度所定の場所に保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の関わり中で本人の希望を聞き出せる様声かけし、ケアに努めている。</p>		<p>言葉の出辛い方にも、何を伝えたいのかゆっくり本人の言葉を待ったり、表現の手掛かりを与え自分で言葉を出せるようにしている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の体調に合わせて本人の希望に沿える様努めている。</p>		<p>外食、買い物、ビデオレタル等、都度希望に沿える様対応している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の希望に沿って理・美容室を利用している。</p>		<p>本人の希望にて馴染みの美容室に行っている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>何が食べたいか尋ねたり、嫌いな物は代替品を提供している。また、食事の下拵えや片付けもその方の力に合わせて職員と一緒にこなしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きなお酒を毎晩晩酌として出したり、行事毎に提供している。おやつも希望があれば一緒に作ったり、買いに行き提供している。		嫌いな食品については代替品を提供している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ誘導の必要な方には時間で誘導し、失敗しない様努めている。又、その際の声かけもさり気なく行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の状況に応じて入浴してもらっている。長風呂の方にはゆっくり温まってもらったり、一緒に歌を唄ったり等楽しんでもらっている。		今後は心地よい音楽等を流し、リラックスして入浴してもらい様試みる。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は利用者のペースに合わせている。また、就寝時不安を訴える方には話しを傾聴したり、安心できる様な声かけを行っている。		本人の睡眠パターンを把握し、眠くなるまでフロアにてテレビを見たり、ホットミルクを提供し、職員と話して過ごしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	独居だった方が入居され、ホームで他入居者との交流を楽しまれている。また、家事等各自の力に合わせて分担して行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で管理できる方は本人所持の財布の中から買い物時自分で支払ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の体調を見ながら、ベランダにて日光浴したり、散歩したり、買物など支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見、動物園、町内会のお祭り等、家族にも連絡し一緒に参加してもらっている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望時には即対応している。遠方への家族とは手紙でやりとりしている。		頼まれたら投函している。また、要望があった時には葉書等を購入している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの方が来訪時、職員は明るく声かけしお茶等を出してゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者を初めとし全職員で身体拘束しないケアに取り組んでいる		今後もマニュアル通りに取り組む。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開設当初から玄関の施錠は、夜間のみとしており日中は職員の見守りと声掛けに心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	在室時は、戸を閉め安楽な時間を過ごしていただきトイレ周期夜間の起床時は注意深く様子観察を行っている		居室で過ごすことの多い利用者は、プライバシーに配慮し、様子を見に行き安全確認をしている
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁・はさみ・針などの注意の必要な物品は管理し使用する際は見守りをしている。夜間は包丁ケースに保管している		漂白剤などは、目につかない所に保管している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	火災については、避難訓練実施し、誤薬については職員各自で利用者の氏名等確認し内服してもらっている。転倒についても個々の状態に合わせ見守りしている。		フロア会議でヒヤリハットの報告を行い、職員間で話し合い大きな事故に繋がらないように取り組んでいる。家族にも都度報告している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応について、必要の応じて勉強会をしている。		急変時対応マニュアルを作成し、常に職員の目の届くところに置き対応できるようにしている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練など定期的に行っており町内会の参加要請もお願いしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒・薬による副作用等変化に応じて家族と話し合い、将来起こりうる個々のリスクについて理解して頂けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のV/Sチェック・本人の状態を確認し、異変時は看護師と連絡を取り速やかに対応している</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の服薬ケースを作り服薬時には、名前・時間に配慮し手渡し服薬まで確認する。薬の変更があったときには、伝達の徹底に努めている。</p>	<p>処方箋の確認・変更になった薬の副作用・誤薬に気をつける</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>午前・午後の体操や・食事前の嚥下体操などの実施を行なっている。食物繊維の多い食品を取り入れた調理や、症状に応じて医師に相談し漢方薬のセンナ茶を煎じて服用している</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の口腔状態に応じて朝・夕の口腔ケアを行い歯周病・口臭等があれば洗口液・歯ブラシ等の使用を行なっている</p>	<p>口腔ケア研修の参加</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分補給は、一日を通じて水分確保を行なっている。食べる量は体重増加もあり制限の必要な方には月1度の体重測定を行い配慮している。</p>	<p>水分量の少ない方には、こまめに声掛けを行い水分の補給を促している</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>利用者・職員全員インフルエンザ予防接種を受けている。また外出より帰設後手洗いうがいを励行し予防に努めている。</p>	<p>外出時は手洗いうがいを実施しており、トイレ後はその都度消毒用の布にてトイレ内の除菌を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>日中も調理器具使用後は消毒し、夜間も台所・調理器具他消毒を行なっている。冷蔵庫・食品棚も夜間勤務帯にて消毒を行なう</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前スロープあり、車椅子の方も安心して出入りできるように設置している。又椅子も設置し、靴の脱履もし易いようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間には、季節の花や飾り等を取り付けて居心地の良いスペース作りを心掛けている</p>		<p>テレビの音等不快にならないように配慮している。余暇時、童謡を流して穏やかに過ごしてもらっている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓とは別にフロアー西側廊下にソファが設置されており好きな場所で入居者同士が思い思いに過ごしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>写真や家具・置物など使い慣れたものを入居者の希望により設置している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の際には、短時間だが換気を行い、温度調節は入居者の状況に応じて行っている。</p>		<p>掃除の際は換気を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人一人の身体機能に合わせて手すりを設置して安全に過ごせるようにしている</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>会議等の話し合いで残存機能を活かして一人一人が自信に繋がるよう声かけ・見守りをしている。</p>	<p>入居者の出来る事・出来ないことを見極め、自立に向けて支援して行きたい</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭には、花・野菜を植え・バードテーブルの設置などをし、ベランダにあるベンチにて日光浴をしながら眺めることが出来るようにしている</p>	<p>野菜の収穫時には、利用者と一緒に収穫祭を行なっている。夏には夜、庭のベンチで花火を楽しんだ。</p>



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>自分で思いを伝えられる人については、訴え時傾聴し、伝えられない人については、職員が日々の会話の中から思いを引き出す様にしている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶の時間や一緒に洗濯物をたたんだり、なるべくゆったり過ごすようにしている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>居室で臥床したり、TVを見たりまたフロアで過ごしたりと思いつきのペースで過ごしている</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員と一緒に会話・レクリエーション等一緒に過ごすことで、生き生きした表現が見られる</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員の勤務状況にて、すぐに行けない時はその旨を本人に伝えなるべく早めに希望に添える様対応している</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>かかり付けの医師に往診してもらったり、看護師に相談しながら健康面に気をつけている</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>要望には、出来る限り応じるようにしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>来設される家族の方からは、話しを傾聴し来設されない家族の方には、お便りや電話で連絡を取り思いを受けとめる様に心掛けている</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>通いの場所はないが、ホームには馴染みの人や地域の方の来設がある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議の中で町内会の行事等を知らせてもらい地域行事に参加する事もふえている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	ストレスの多い職種ではあるが、お互いに相談しながら働いている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	「ここはいいところだよ。もうここで一生を終えたい。」と言ってくれている方もいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	家族からは、来設時にケアプランにサービスの希望があればと尋ね希望を取り入れる様にしている

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 災害時の為に、ホームの緊急連絡網作成に町内会の協力をお願いしている。地域との関わりとして「生き生きサロン」の取り組みを多くし、ホームを開放し入居者との交流を深めていきたい。又、かわら版掲載の協力や地域行事にも参加し、ホームの行事には近隣の方々にも参加して頂き交流を図っている。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

2 階

事業者名	グループホーム武佐の杜	評価実施年月日	平成21年11月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月20日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>家庭的な環境と地域住民との交流の下で、共同生活を安心して暮していただける思いで事業主と話し合っている。</p>	<p>お互いに歩み寄る事で地域の皆さんに顔を覚えて頂き今後尚一層深く関わって行く</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々変っていく利用者に対して今のその人らしさを大切に理念と照らし合わせ変化ごとにどのように支援するかを相談し合い、職員一丸となり取り組んでいる</p>	<p>一人一人の生活リズム・性格を見極め介護を心がける</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>家族・町内会の方々へグループホーム便りを配布している。地域の行事に参加している家族には、契約時に説明している。</p>	<p>地域の方々に理解して頂き積極的に関わりを持ちたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>お天気の良い日は、散歩実施。散歩途中では気軽に声を掛け合い切花をもらってきいたり、秋の収穫祭の芋を近所に配って交流が出来るように努めている</p>	<p>町内会行事の声掛けをして頂き近隣との交流を深めている</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の行事(焼肉・お祭り)に参加しホームでの秋祭りも町内会と一緒に企画を立てて地域の方達と交流を深めるよう努力している。</p>	<p>盆踊りや地域の作品等の見学に参加し今後も交流を深めたい</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内会会長、女性部の協力の下、利用者と共に手打ちうどん、お好み焼き等を作ったり、踊りを教えてもらい楽しんだ。</p>	<p>地域高齢者と共に介護予防教室等をホームで開催したい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>フロアーリーダーが中心となり、職員全員が自己評価し意義を理解し不十分な箇所の強化・改善に努める</p>	<p>外部評価を機会に職員間でも日々の介護を話し合い取り組んでいる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>年6回の運営推進委員会議を開催し町内会・家族会・地域包括センターの方々の下で2ヶ月に1回の行事報告・話し合いや相談し助言をいただきサービスの向上に努めている。</p>	<p>毎回テーマを決めて実施している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括センターに毎月発行している(かわら版)を届ける際相談・助言を頂きサービス向上へと勤めている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所は、研修を受けて理解に努めている。将来必要になる方については、市役所に相談するなど活用出来るように準備している。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修参加等で学びフロアー会議で情報共有・統一したケアをしている。</p>	<p>虐待防止マニュアルを活用している。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者・家族等にしっかり説明し納得の上で契約を結んでいる</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からの不満・苦情等については、訴え時しっかり傾聴し会議でも話し合い解決に努めている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>写真入月例便りを家族へ郵送し、利用者の暮らしぶり等が分かる様に担当者からの状況報告もしている。又、家族の方が訪問時にも近況報告をし行っている。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時に不満・苦情を話して頂けるような雰囲気作りを職員全員で心がけている</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一度のフロアー会議で職員の意見や提案を聞くようにしている。年1回の個人面談を行い一人一人の意見を聞いている</p>		<p>話し合う機会を設けストレスの軽減を図りたい</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員の協力があり突発的な勤務調整や必要な時間帯のスタッフ確保は出来ている</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職職員がいた為やむを得ず行ったが、必要最小限に抑えるよう努めている</p>		<p>離職者が出ないよう常日頃より職員の思いを聞くなど早めの対処を考えたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は研修を受ける機会を確保してくれており、管理者はその為に勤務調整を行ってくれている。</p>	<p>研修後は報告書を提出し会議などで報告を行っている</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交換研修や勉強会等の機会を設けている。又、そのときの報告を会議にて行いサービスの質の向上に取り組んでいる。(年1回ボーリング大会参加)</p>	<p>研修後は報告書を提出し会議などで報告を行っている</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>声を掛け合いながら休憩時間を利用し話し合っている。リフレッシュ休暇(有給)も交代で取れる様にしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個人の性格を理解した上で勤務状況を把握し向上心を引き出せるように努めている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族や本人に関わった事業者や病院などから情報収集をし本人の意見や思いを傾聴し安心出来るように努める</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前の見学・相談や意向を充分傾聴し不安要因の軽減に努める</p>	<p>入居時、家族にセンター方式の記入をお願いしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態や家族との話し合いの中、何が必要なのか職員間でも協議しながら初期支援計画を作成している。		自宅での様子等を伺ったり、状況を見ながら話を聞きより深く理解して頂けるように今後も努めていきたい
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に本人・家族が見学を行いホームでの生活と雰囲気を感じて頂いている。疑問に思うことは、その都度家族に連絡をし解決に向けている		入所時に、希望に応じお試し入居期間を設けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来る事をなるべく着目し(洗濯・掃除・調理・縫い物等・畑仕事)職員と一緒にいきいきと生活出来る関係を築いている。		利用者は、人生の先輩であるという意識を持てるように心掛けていきたい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来説時には、日々の様子を伝えており本人の意向や訴えに対しても電話連絡をし催し物などの案内を行い時間を共有出来るように働き掛けている		家族来所時日々の生活状態を伝えている。今後も、家族に気づいた点を話して頂ける関係を築きたい
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の生活に対する意向を明確にし情報交換を行い良い関係を保てるように支援している。(家族との食事会・買い物)		通院などを機会に家族とのよりよい関係を維持できるよう働きかけている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が来設の際居室にてくつろいで頂ける様な対応また来訪していただける様な雰囲気作りに努めている		昔本人の行っていた洋菓子屋に一緒に行きとても喜んでいて。今後も機会を作り支援して行きたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	介護員が間に入り関係作りを支援している。本人に合った役割を持ち時には、助け合い支え合いながら生活を送っている。		利用者同士が共有できる生きがいになるようなことを、見つけるように努力して行きたい
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後は、家族からの連絡はないが家族とあった時は挨拶を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から自分の思いを伝えられるように信頼関係作りを努めている。希望が叶うようにスタッフで話し合う機会を作っている。		ドライブは行っているが遠方はあまり実施していないので、行事に組み込み実施したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用しサービス内容については、家族からの情報をもっと提供して頂きその人らしさを引き出せるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中で体調の変化、表情、言動に注意しながらスタッフ間で情報交換をしている個人日誌の活用。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月ごとに会議等でカンファレンスを行い、担当者が中心となり計画書を作成する。介護計画表は家族に説明し捺印を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直し時期とは別に家族からの意見や変化が生じた時はケア内容の変更を行う。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常、記録にプランの結果を記号にて記入し、情報を共有している。プランの他で、入居者の状態がわかるように文字の色を変えて次のプランに活用できるように行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族が宿泊されることもあり、クリスマス会・餅つき、秋祭りなどで食事と一緒に参加して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアの方々が自主的に訪問している。(日本舞踊・将棋・落語・演劇サークルの合唱)		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のサービス事業者と連絡を取りながら車椅子・ベットを購入している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	二ヶ月に一回の運営推進委員会にて情報交換・相談・協力が得られている。家族会にも出席して頂いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	希望に沿って適切な医療を受けられる支援を行っている		往診医とのコミュニケーションは大切にしている(2週間に一度往診)。今後も本人・家族の希望を伝えられるよう事業所とかかりつけ医との関係を密に行う。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者の状態によって認知症専門医への受診を家族にすすめ診断・治療が受けられる様支援する。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が勤務しており日常の健康管理を行っている。かかり付けの医師や看護師と連携をとり相談しながら支援している		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会時には、状態の確認などを行い病院と話し合い退院後も安心して過ごせるよう支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	まだ充分ではないが、かかり付け医師とターミナルケアについては話し合いをしている。		かかりつけ医主催のターミナルケアの講演会に参加した。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化・終末期を迎えた利用者が、より良い状態で残りの人生を過ごせる様かかり付け医師と相談しながらチームケアをして行くことを検討する。		チームとしてし職員全体に利用者の重度化・終末期の支援の統一を話し合う機会を設け、既にターミナルケアを行っている他グループホームの方々に意見を伺っている。また、そのホームへの職員研修も予定している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替え時フェイスシートにて関係者と事前に情報交換し利用者がダメージを受ける事がないように努めている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレ誘導時、他者に聞こえない様声かけをする等の配慮をしている。また、記録物については都度所定の場所に保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の関わりの中で思いを引き出せるような声かけをし、ケアに努めている。</p>		<p>今後も残存機能を活かし支援の継続を行ないたい</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の体調に合わせ希望に沿って支援できるよう努めている。</p>		<p>レストラン等への外食、買い物、映画等、希望に沿って都度対応している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の希望に沿って近隣の理容・美容室を利用している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>何が食べたいか尋ねたり、嫌いなものは代替品を提供している。本人の力に合わせて一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	好きな飲物・おやつ等その方の好みに応じたものを提供している。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄パターンを把握し表情やしぐさを察知して気持ち良く排泄できるよう支援している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	入居者の状況に合わせた入浴を心がけている。		湯加減や長風呂等体調に考慮し希望に沿っている。今後は心地よい音楽等を流してリラックスして入浴してもらおう試みたい。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりのペースに合わせている。不穏・不安時は安心感の得られる声かけを心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	各自の役割ができている。趣味を活かし楽しめるよう支援している。		公共施設利用の支援を行っている。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	管理の出来る方は少ないが、できる方には少額でも自分で管理してもらっている。その事が自信や安心に繋がっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>61 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>ドライブや外食等一人ひとりに合った外出支援をしている。</p>		
<p>62 普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>普段はあまり行けない所(映画館・動物園等)へも出かけ、個別に要望に応じ支援している。</p>		<p>家族へも連絡し一緒に参加してもらっている。</p>
<p>63 電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>希望時にはすぐに対応している。遠方の家族とは手紙のやりとりを行っている。</p>		<p>依頼があった時には手紙の投函をしたり、封筒・はがきを購入している。</p>
<p>64 家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>馴染みの方が来訪の際はフロア、居室等で過ごして頂き、お茶等を出し、時には職員の会話の輪に入り明るくコミュニケーションをとっている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
<p>65 身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。</p>		<p>今後もマニュアル通りに取り組む。</p>
<p>66 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>開設当初から玄関の施錠は、夜間のみとしており日中は職員の見守りと声掛けに心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中については、利用者の所在確認は職員の声掛けなどで把握しており夜間は巡回時以外にも状態に応じて巡回を行なっている。		居室で過ごすことの多い利用者は、プライバシーに配慮し、様子を見に行き安全確認をしている
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁・はさみ・針などの注意の必要な物品は管理し使用する際は見守りをしている。夜間は包丁ケースに保管している		漂白剤などは、目につかない所に保管している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	火災については、避難訓練実施し、誤薬については職員各自で利用者の氏名等確認し内服してもらっている。転倒についても個々の状態に合わせ見守りしている。		フロア会議でヒヤリハットの報告を行い、職員間で話し合い大きな事故に繋がらないように取り組んでいる。家族にも都度報告している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応について、必要に応じて勉強会をしている。		急変時対応マニュアルを作成し、常に職員の目の届くところに置き対応できるようにしている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練など定期的に行っており町内会の参加要請もお願いしている。夜間想定 の避難訓練も実施している		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	転倒・薬による副作用等変化に応じて家族と話し合い、将来起こりうる個々のリスク について理解して頂けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のV/Sチェック・本人の状態を確認し、異変時は看護師と連絡を取り速やかに対応している</p>	<p>看護師と連携をとり、時にはかかりつけ医師にも連絡をとり指示を受け対応している。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の服薬ケースを作り服薬時には、名前・時間に配慮し手渡し服薬まで確認する。薬の変更があったときには、伝達の徹底に努めている。</p>	<p>処方箋の確認・変更になった薬の副作用・誤薬に気をつける</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>午前・午後の体操や・食事前の嚥下体操などの実施を行なっている。食物繊維の多い食品を取り入れた調理や、症状に応じて医師に相談し漢方薬のセンナ茶を煎じて服用している</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の口腔状態に応じて朝・夕の口腔ケアを行い歯周病・口臭等があれば洗口液・歯ブラシ等の使用を行なっている</p>	<p>口腔ケア研修の参加。 毎食後・就寝時の口腔ケアを行なっている</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分補給は、一日を通じて水分確保を行なっている。食べる量は体重増加もあり制限の必要な方には月1度の体重測定を行い配慮している。</p>	<p>水分量の少ない方には、こまめに声掛けを行い水分の補給を促している</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>利用者・職員全員インフルエンザ予防接種を受けている。また外出より帰設後手洗いうがいを施行し予防に努めている。</p>	<p>外出後は、手洗いうがいを実施しておりトイレ後は、その都度消毒用の布にてトイレない除菌を行なっている。</p>



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>日中も調理器具使用後は消毒し、夜間も台所・調理器具他消毒を行なっている。冷蔵庫・食品棚も夜間勤務帯にて消毒を行なう</p>		<p>食材の購入は最小限にし使いきり、新鮮な食材を使用するように心がけている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前スロープあり、車椅子の方も安心して出入りできるように設置している。又椅子も設置し、靴の脱履もし易いようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間には、季節の花や飾り等を取り付けて居心地の良いスペース作りを心掛けている</p>		<p>テレビの音など不快にならない様に配慮している</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓とは別にフロア西側廊下にソファが設置されており好きな場所で入居者同士が活用しています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>写真や家具・置物など使い慣れたものを入居者の希望により設置している。</p>		<p>日々の会話で好みの物を見出していきたい</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の際には、短時間だが換気を行い、温度調整は入居者の状況に応じて行っている。</p>		<p>掃除の際は換気を行なっている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人一人の身体機能に合わせて手すりを設置して安全に過ごせるようにしている</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>会議等の話し合いで残存機能を活かして一人一人が自信に繋がるよう声かけ・見守りを支援している。</p>	<p>入居者の出来る事・出来ないことを見極め、自立に向けて支援して行きたい</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭には、花・野菜を植え・バードテーブルの設置などをし、ベランダにあるベンチにて日光浴をしながら眺めることができるようにしている</p>	<p>野菜の収穫時には、利用者と一緒に収穫祭を行なっている。夏には夜、庭のベンチで花火を楽しんだ。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>自分で思いを伝えられる人については、訴え時傾聴し、伝えられない人については、職員が日々の会話の中から思いを引き出す様にしている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶の時間や一緒に洗濯物をたたんだり、なるべくゆったり過ごすようにしている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>居室で臥床したり、TVを見たりまたフロアで過ごしたりと思いつきのペースで過ごしている</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員と一緒に会話・レクリエーション等一緒に過ごすことで、生き生きした表情が見られる</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員の勤務状況にて、すぐに行けない時はその旨を本人に伝えなるべく早めに希望に添える様対応している</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>かかり付け医師の往診や看護師に相談しながら健康面に気をつけている</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>要望には、出来る限り応じるようにしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>来設される家族の方からは、話しを傾聴し来設されない家族の方には、お便りや電話で連絡を取り思いを受けとめる様に心掛けている</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>通いの場所はないが、ホームには馴染みの人や地域の方の来設がある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進委員会議の中で、町内会の行事等を知らせてもらい地域行事に参加しホームの行事にも参加して頂いている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	ストレスの多い職種ではあるが、リフレッシュ休暇や管理者に相談する事で軽減されている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	「今、幸せだよ」と話して頂いた利用者の方もいる
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	「満足しているという」声を家族の方から掛けて頂く事もある

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 地域との関わり、いきいきサロンへの取り組み・かわら版掲載への協力・防災への協力・地域行事の参加協力、又グループホーム側も町内会の行事に多く参加して交流を深めている。利用者一人一人に合った支援が出来る様ホーム全員で日々話し合い取り組んでいる。